

# 文化学園服飾博物館だより

# Vol.35

2022.3.1

編集・発行 文化学園服飾博物館

- 文字で想いを伝えたい！…………… 1
- 2021年の活動報告…………… 2
- 特 集…………… 3
- 2022年 展示のご案内…………… 4

## 文字で想いを伝えたい！

～ 衣服に書かれたメッセージ ～

みなさんの着ている服には文字が書いてありますか？  
ブランド名やアーティスト名が書かれたTシャツ、  
外国人向けの漢字を書いたTシャツなど、文字のある  
服は自分の「好き！」や「主張」をそれとなく相手に  
伝えたり、気分をあげたり、またコミュニケーション  
のきっかけになったりしますね。

ここでは、さまざまな地域の「文字の書かれた服」を  
見てみましょう。そこにはどんな想いが込められてい  
るのでしょうか…？



いいコート2倍に  
なりますように…

中国の化粧具入れ  
(20世紀初め)

喜の文字を2つ並べた「囍」は喜びが重なることを願います。



知的な女性の  
"匂わせ"？

日本の小袖 (江戸時代後期)

肩から袖には詩歌の一部の文字を散らしています。これは『千載和歌集』の「君が代を長月にしも白菊の 咲くや千歳のしるしなるらむ」をふまえたものと思われ、文様と和歌の世界観がつながり、深い趣が感じられます。



アイデンティティを  
全身に。切なる願い

パレスチナ地域のドレス  
(1990年頃)

イスラエルの占領に反対するパレスチナ人の抗議行動の  
広がりを受けて作られたドレス。「パレスチナ アラブ」  
の文字と旗が、繰り返し刺繍されます。



幸せに  
なりたい！

朝鮮のテランチマ(1920年頃)

テランチマは朝鮮時代の宮中礼服の裳。裾には、  
男児を授かり幸運が多いようにとの願いを込めた  
「男・多・福」などの文字が箔押しされます。

鳩が運ぶ  
世界平和



モスキーノの  
ミニドレス (1997年)  
イタリアのデザイナー、  
モスキーノの作品。平和  
を象徴する鳩とPEACE  
の文字は、世界平和を訴  
えかけています。



好きなコトバと  
いつも一緒に…

WAPAMBE MSITUJADILI MAMBO NDIVYO YALIVYO  
"WAPAMBA MSITU, JADILI MAMBO NDIVYO ALIYO"  
(森を飾るようなものだから、議論はよしてそのままにしておこう)

タンザニアの巻衣:カンガ (2010年)  
カンガは東アフリカ地域で巻衣、被り布、物入れ  
などに使う万能布。中央下にスワヒリ語のことわざ  
や格言が表され、着る人の気持ちを代弁します。



活字が  
アートに!?

ガンライヒの  
ミニドレス  
(1968年頃)

ガンライヒは  
アメリカで人気  
を得たデザイナー。  
活字をランダムに  
並べ、文字はポップ  
アートの表現として取り入れられています。

## ヨーロッパ・モード

2月18日～4月22日

本展では、18世紀から、産業の発達や社会の成熟とともに変化する19世紀を経て、若者や大衆が流行の担い手となった20世紀末まで、約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介しました。

第2展示室では「19世紀末からの服装改革」を特集し、変化する社会とともに活動的になりはじめた女性のドレスやスポーツ服などを展示しました。新型コロナウイルスの影響から開館日を限定しての開催となりましたが、当学園の学生をはじめ、来館者の皆様に熱心にご覧いただきました。



## Dreams -to be continued- 高田賢三 回顧展

6月1日～27日

1970年代からパリモード界を牽引した文化服装学院卒業生、高田賢三。パリで作品を発表した1970年のデビューから50周年を迎えた2020年10月、新型コロナウイルスによる合併症でこの世を去りました。本展では学校法人文化学園に保管されている1970-80年代にかけての服飾作品、関連資料、写真などで高田賢三の足跡を辿りました。約1か月間の展示には多くの人が訪れ、「夢」をもって挑戦し続けた数々の作品から、モード界で彼が成し遂げた事のすばらしさを再認識することができました。



## 公益社団法人京都染織文化協会創立80周年記念 再現 女性の服装1500年

— 京都の染織技術の粋 —

7月15日～9月28日

本展では、京都染織文化協会の所蔵する、昭和初期に制作された「復元時代衣裳」を「着装展示」によって紹介し、古墳時代から明治時代までの女性の服装1500年の歴史を辿りました。また第2室では、当館所蔵の江戸時代後期から昭和時代初期の小袖、着物の優品を展示しました。会期中、京都の職人による伝統染織技法の実演とワークショップ、オンラインでの講演会といった関連イベントも実施し、高度で繊細な京都の染織技法を身近に感じていただくことができました。



## 民族衣装

— 異文化へのまなざしと探求、受容 —

11月1日～22月7日

本展では、当学園図書館の所蔵する民族衣装が描かれた書物や、当館の所蔵する民族衣装の研究者のコレクションなどから、ヨーロッパや日本において、アジアやアフリカの民族衣装がどのようにとらえられてきたかを探りました。また民族衣装の影響を受けたヨーロッパのドレスを、元となった民族衣装とともに並べて紹介しました。民族衣装をこのような視点から展示するのは初めてで、当館のコレクションを存分に生かしたものとなり、NHK Eテレ「日曜美術館」でも取り上げられました。



## 埼玉県立歴史と民俗の博物館に協力

3月23日から5月16日まで埼玉県立歴史と民俗の博物館で開催されたNHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄一のみなざし～」に、当館から渋沢栄一着用の大礼服やトランクなど計5点を出品しました。



## 「東京ハンドメイドフェス」に協力

9月17日から20日まで、東京ドームシティ・プリズムホールで開催された「東京ハンドメイドフェス」に、世界各地の刺繍39点を出品しました。



## 神奈川近代文学館に協力

3月20日から5月16日まで神奈川近代文学館で開催された「創刊101年記念展 永遠に「新青年」なるもの —ミステリー・ファッション・スポーツ—」に、当館から昭和初期の背広、ドレス、水着など計9点を出品しました。



## 茨城県立歴史館に協力

'22年2月19日から茨城県立歴史館で開催された「華麗なる明治 — 宮廷文化のエッセンス —」展に、当館から宮内官大礼服1点を出品しました。

(前期展示：3月13日まで出品)



宮内官大礼服  
明治44年～昭和2年

## 武蔵野美術大学美術館に協力

5月12日から6月20日まで、武蔵野美術大学美術館で開催された「膠を旅する— 表現をつなぐ文化の源流」に、ロシアのナーナイ族の魚皮衣装を出品しました。



撮影：内田亜里

## 抗菌・抗ウイルスコーティングをしました。

感染防止対策の一環として手すりや取手などに抗菌・抗ウイルスコーティング加工を施しました。来館者の皆様に少しでも安心してご来館いただけるよう、努めていきたいと思ひます。



## 環境に配慮した取り組み

近年、より良い世界を目指し、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みが企業にも求められています。服飾博物館では、環境や資源を守るため、小さな取り組みを積み重ねています。ここでは展示中の環境への配慮について、そのいくつかを紹介していきます。

### 【サーキュレーターの使用】

貴重な服飾資料のある展示室は、常に温湿度を一定に保つ必要があります。しかしそのためには大きな空調システムを動かし続けなければなりません。この電力の負担を少しでも軽減させるため、展示室の天井に数か所、サーキュレーター（空気を攪拌するファンのついた装置）を取り付けています。家庭で行うエアコンと扇風機の併用と考え方は同じです。



天井に取り付けられたサーキュレーター

### 【デジタル・チラシの活用】

チラシやポスターを作製し配布することは、ビジュアルで展示会の内容を示す有効な広報手段といえます。しかし近年、若者を中心に紙媒体から情報を得る割合が減っており、さまざまな機会でスマホやパソコンの活用が増えています。チラシを実際に手に取ってご覧いただいたり、来館の記念にお持ちになる方もいらっしゃるため、紙媒体を全面的にやめることは考えておりませんが、段階的に数を減らし紙資源の削減を目指していくつもりです。なお、当館ホームページからダウンロードできるデジタル版のチラシは、印刷版チラシと異なり、両面オールカラーでご覧いただけます。是非ご活用下さい。

### 【組み立て式のケースの使用】

服飾博物館で使用する展示ケースには、壁面に固定されたケースと可動式の亚克力ケースがあります。この可動式ケースは組み立て式で、展示する資料の大きさによって90cm単位で幅と奥行きを変えることができます。展示のたびに新たなケースを作ることもないため、環境にやさしく、かつ経済的です。L字型やコの字型に組み立てるなど、さまざまに展開でき、展示によって雰囲気を変えることができます。



可動式の亚克力ケース

ドレスの展示ではケースの奥行を広く、着物の展示では奥行を狭くしています。

### 【木製パネル使用の取りやめ】

展示の中で掲示する解説パネルには、これまで木製のパネルを使用してきました。しかし、このようなパネルは再利用が難しく、毎回廃棄せざるを得ませんでした。このため2年前からこの木製パネルを見直し、シート状のものに変更しました。上下のバーに布製のシートを取り付けて固定しますが、バーは取り外して繰り返し使用でき、展示会終了後の廃棄物の量も大幅に削減できました。



シート状の掲示物

上下にアルミ製のバーを取り付け、上から吊る形式。木製パネルよりも軽量で取り扱ひもしやすい。

## 展示作業の安全性への取り組み

博物館の展示準備作業は、貴重な資料を並べるだけではありません。展示のための仕物の移動や設置、画鋸や釘を使っての掲示物の固定、それぞれの展示物の説明パネルをカッターを使って切るなど、多くの作業を並行して進めています。過去には、夜遅くまで作業を行ったり、作業を急ぐあまりに安全性を見過ごしたり、といったことがありました。しかし、それはスタッフにとって、さらには貴重な資料に対してもリスクが高まることとなります。「働き方改革」が叫ばれる昨今、改めてスタッフの安全や作業環境を見直していきたいと考えています。また、展示導線や展示物の配置に危険がないよう、常に来館者の目線に立って展示物を配置し、来館者の皆様の安全を最優先に考えていきます。

### 【作業計画をたて、その日の作業を確認、共有する】

展示作業はチームワークが大切です。また展示の準備期間は限られています。事前に作業計画をたて、日々の作業内容を確認しながら効率よく進めていくことが大切です。

作業内容の確認のためのミーティング



### 【作業時間を決め、集中する】

大切な資料と向き合うためには集中力も欠かせません。作業時間を決め、また適度な休憩をとりながら向き合うことで集中力が維持でき、作業効率もあがります。普段から「ながら作業」を行わないことも心掛けていきます。

### 【什器を安全に取り扱う】

衣装の展示で使用するマネキンは、重さが約15キロあり、自分の背の高さを超えるため、移動や着せ付けの作業には大きな負担を伴います。また、展示台やステージなどの備品類も重量のあるものがいくつかあります。重たいものを扱うときは業者に依頼したり、2名以上のスタッフで取り扱うなど気をつけています。また大がかりな作業や細かな作業は、なるべく集中力のある午前中に行うなど、

事故のリスクを回避するための取り組みを行っています。



展示台の移動



マネキンへの着せ付け

### 【これまでの「ヒヤリハット」事例の共有】

これまで幸い作業中の大きな事故はありませんが、「ヒヤリハット」はいくつかあります。それらの多くが集中力の緩む午後や夕方に起きています。カッターで指を切る、バランスを崩して転ぶ、物を落として破損させる、展示ケースのガラスを開けていることに気付かず顔をぶつけるなど、これまでの事例の原因と対策をまとめ、スタッフで共有し、安全な作業につなげていくことが大切です。

展示作業中、ガラスを開けている部分には印をつけて注意を喚起する。



3月11日(金)～5月18日(水) \* 4/22、5/13 は19:00まで開館

ヨーロッパ・モード

ヨーロッパのドレスは、それぞれの時代でスカートの形や丈、袖の大きさなどに流行が見られます。これらの流行は、政治的、経済的、社会的要因が密接に関係しています。本展では、宮廷が流行を生み出した18世紀から、産業の発達や社会の成熟とともに変化する19世紀を経て、若者や大衆が流行の担い手となった20世紀末まで、ヨーロッパを発信源とする約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介します。また特集として「花」模様を取り上げます。花模様はいつの時代も好まれ、花の種類や色、配置、また織物、刺繍、捺染といった表現方法によって、さまざまな印象を与えます。展示では18世紀から20世紀までの花模様のドレスを中心に出品します。



6月15日(水)～8月4日(木) \* 6/23は閉館  
 6/17、7/8 は19:00まで開館

型染 ～日本の美

紙や木の型を使って布に文様を表す型染は、日本の豊かな染織文化の中で古くから行われてきました。型による文様には整然とした模様配置や反復の諧調など、特有の表現や美しさを見出すことができます。また、ものの形を巧みにとらえて単純化、デフォルメした図案は、型の使用という制約があるからこそで、かえってそのものの本質を印象深く表すことができ、日本人の文様に対する独特の美意識も感じられます。本展では、小紋、板締、型友禅など、藍一色の精緻なものから多色を用いた華やかなものまで、さまざまな型染の服飾を紹介します。



9月14日(水)～11月13日(日) \* 月曜休館(ただし9/19、10/10は開館)  
 開館時間=10:00～18:00(金曜は20:00)  
 未来は過去にある "THE FUTURE IS IN THE PAST"  
 - NIGO's VINTAGE ARCHIVE -  
 (入館は閉館の30分前まで)

「HUMAN MADE」創設者兼デザイナーであり、「KENZO」のアーティスティックディレクターでもあるNIGO®。創設者の高田賢三氏以来、日本人としては初となる「KENZO」のデザイナー就任で大きな節目を迎えたNIGO®が、少年期より35年余りにわたって収集し続けている門外不出のヴィンテージコレクションを、母校である文化服装学院の関連機関である文化学園服飾博物館にて展示いたします。ここまで稀有なヴィンテージアイテムの数々が公開されるのは滅多にありません。母校の文化服装学院より更に多くの世界を魅了するファッションデザイナーが誕生することを願い、NIGO®自らが母校の後輩をはじめ、世界中のファッション愛好者やヴィンテージフリークのために企画した展示をぜひご覧ください。主催=文化服装学院 お問い合わせ 03-3299-2211



12月9日(金)～2023年2月14日(火) \* 年末年始休館=12/28～1/5  
 12/16、1/20 は19:00まで開館  
 紅白 夢の競演! -さまざまな国の"赤"と"白"-

衣服の「色」は、着たときの印象を左右する大切な要素で、時に個人や民族の思想を反映したり、着る人の立場を表すなど、さまざまな解釈が与えられてきました。本展では、「赤」と「白」の衣装に注目し、日本の着物、アジアやアフリカの民族衣装、ヨーロッパのドレスなど、約40か国の衣装を出品します。赤は太陽や火、血の色に通じることから、生命力や力強さ、権威の象徴とされることもあります。また色味を持たない白は、透明感や清らかさを連想させることから、清潔、純真、神聖といった意味が与えられることもあります。それぞれの色が各国でどのような意味を持つのか、共通点や相違点などを探りつつ、世界各地の衣装の競演をお楽しみください。



利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30 (各展示会期中2回、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間、6月23日
- ◆ 入館料 一般 500円・大高生 300円・小中生 200円 \* 20名以上の団体は100円引、障がい者とその付添者1名は無料
- ◆ 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分 都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心口)より徒歩4分

▲上記予定は都合により変更される場合があります。最新の情報はホームページでご確認ください。



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木 3-22-7  
 TEL. 03-3299-2387  
<https://museum.bunka.ac.jp>

100th ANNIVERSARY 文化学園 100 BUNKA GAKUEN 学校法人文化学園  
 文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館